

# カンパチの種苗生産技術開発

鹿児島県水産技術開発センター 種苗開発部 外園博人

## 1 目的

鹿児島県ではカンパチの養殖業が盛んで、その生産量は全国一位となっている。平成16年の生産額は225億円で、本県漁業生産額の28%を占めている。

カンパチ養殖においては、種苗のほとんどを外国産天然種苗に依存しており、安価な種苗を安定的に確保することが困難である上、輸入種苗とともに様々な疾病を持ち込む懸念もある。

このため、親魚養成技術及び種苗生産技術を早急に確立し、人工種苗を供給することが必要である。これにより、①種苗の安定確保と養殖コストの低減による養殖漁家の経営安定、②地域のカンパチ種苗供給産業の創設、③外国産天然種苗輸入に伴う疾病持ち込みの防止が可能となる。さらに、国民に生産履歴が明らかで安全・安心な食品を提供することも可能となる。

カンパチの種苗生産の試験研究は、近年、西日本を中心とした数機関で実施されているが、安定した人工種苗生産技術の開発には至っていない。

## 2 これまでの実績

平成8年度に、国産天然魚150尾(平均体重0.5kg)の親魚養成を開始した。

平成9年度からは、外部からの導入卵による種苗生産の基礎試験を開始し、平成13年度から3年間はカンパチ種苗生産技術開発試験として取り組んだ。平成16年度からはカンパチ種苗量産化技術開発試験として実施中であり、今年度からは先端技術を活用した農林水産研究高度化事業に参画して、国や大学等との連携を強化し、早期の技術開発を図っている。

次表に、水産技術開発センターにおけるカンパチの採卵数及び種苗生産尾数の実績を示す。

年度	採卵数(万粒)	種苗生産尾数(万尾)
13	90	1.3
14	900	1.9
15	1,700	1.6
16	900	0.6
17	1,300	5.6
18	214	8.7

## 3 今後の課題

- (1) 良質卵を安定的に確保するための親魚養成技術の開発を図る。
- (2) 初期減耗や共食いを防止し、生残率を高めるための種苗生産技術の開発を図る。